

275

特246

526

栗山博著

十五錢

共栄通貨と物資交流

南進社



3

0027383-000

特246-526

共栄通貨と物資交流

栗山博・著

南進社

昭和17

ADH

この著作物は、著作権者不明のため、著
第67条の規定に基づき、平成12年5
付けで文化庁長官の裁定を受け使用する

H 246
526



衆議院議員 栗山博著

貨幣通貨と物資交流

東京・神田南進社發行



目次

◇序に代へて……………二

◇緒言……………四

◇神武作戦と經濟聖戦の布陣……………七

◇大東亞戰完遂と通貨統制……………一〇

◇圓を中心に共榮通貨の使命……………一四

◇支那の通貨と管理統制……………二〇

◇共榮通貨の比率と物資交流……………二六

◇結語……………三三



序に代へて

満洲事變、支那事變に次ぐ大東亞戰の展開により、僅か三ヶ月にして東亞の大半を制覇し、太平洋、南洋、印度洋も亦皇帥の制壓する所となつた。私が往年、巴拿馬運河開通當時、運河利用の航路に及ぼす影響よりも太平洋を繞る各地域の物資交流の變動を透視し、我が日本は米國の利器を逆用して太平洋の通商覇權を掌握すべしと論じ、列國及び諸地域間の貿易商品と其の數量および交流の方向とを指示して、我が朝野に警告し、世論の喚起に努めたのは大正六年のことであつた。更に昭和七年五月、満洲事變直後に於て亂雜なる滿洲國の舊通貨の整理を斷行し、新通貨發行券銀行を設立すべしと提唱し、さらに昭和十五年七月には現地調査に基き法幣問題に關する私見を發表したのであるが、今や世紀の轉換を前にして構想を新たに、丹心報國の念願益々切なるものがある。私は大正七年支那大陸縱斷を試みてより朝鮮、滿蒙、北支、中支、南方に將又北邊に踏入り、大陸政策を目的として調査旅行す

ること二十餘回に及び、殊に満洲事變勃發以來は皇軍慰問と經濟調査に毎年一回乃至二回の旅行をつとけて來た。その都度、軍官民の閣下並に各位の御教示にあづかり、調査研究に至大の便宜を得たることを深く感謝するものである。

吾等の想像に絶する皇軍將士各位の御苦勞を偲ばんと志し、極寒、酷暑の季節を撰んで旅行を決行し、時には第一線にまでの慰問も叶ひ得たこともあるが、眞に自ら頭の下るを覚え、感謝感激に充たされて居るのである。この感謝感激をば職域奉公を以て報謝の實踐躬行に移さんと努めたものが、旅行中の體驗と刺戟とから求道となり、究理となり、現實觀を深め、通貨政策の確立が大東亞經濟建設の基調を爲すものであることを確認するに至つた。そこで共榮圈通貨の國策樹立を要望し、大東亞戰目的完遂の使命達成に誓つて精進し、敢て非才を顧みず、短篇を輯して識者の教を請ひ、併せて何者か時局に貢獻する所ありとすれば、誠に望外の幸と存するものである。

共榮通貨と物資交流

四

緒言

大東亞戦争は神國日本が御陵威のもと、肇國の大精神を振起して、明朗なる八紘爲宇の新世界秩序を建設せんとする天業達成の大進軍である。これまで米英等の自由主義國家群は力の政治を以て功利經濟を保護し、ポンドで操る外交やドルの糸引く通商交易などにより資源不足の民族國家群を永久に制壓し得るものと妄信してゐた。その權謀を逞しくして彼等の覇道を強制せんとした強慾貪婪の策動は、今や無敵皇軍の堂々たる武威の前に摺伏し、飽くなき驕慢の榮華は一朝にして儂なき過去の夢と化すに至つたのである。

戦争はもとく建設的破壊である。すなはち建設の爲めの破壊である。従つて撃破進軍の裡に經濟進軍を必要とし、征戰完遂の戰跡を追ふて堅牢不壞なる立體的建設を築き上げることが、統

後國民の責任である。勝ち抜く武力進軍に伴ひ、勝ち抜く不退轉の經濟戰が戦争目的完遂の爲めに、如何に重大なる使命を有するかは敢て言を竣たぬ。近代戦争の特質は、實に國民經濟の總力戰である。

然して經濟活動の目的は物資である。その物資の生産、加工を利用し、最高度に效用を充足することが謂ゆる經濟である。これまでの經濟學者は經濟とは本能の満足追及であると説いたが、それは今や過去の古紙となつた。今日の經濟理念は國家全體の生命を活動飛躍させる目的に歸して、これが満足充實を追求することにあると解すべきである。從來の自由主義經濟に育ぐまれた學者ですら、戰時經濟には學理も原則もないと告白してゐる。惟ふに戦争中の經濟建設には二途があり、その一は敵性追撃による經濟征戰であり、他の一は調節經濟による協和建設である。これが實物教訓は支那事變以來、既に數ヶ年に涉つて軍、官、民ともく貴重なる體驗を重ねてきたところである。それは東亞の共榮圈が地域的にも人口的にも、強大である爲めばかりではない、圈内には支那といふ特異の存在をもつてゐるからである。西歐に於ける獨逸が全歐洲の廣域

に在つて經驗した經濟戰に比べて、わが日本が支那を抱いての經濟戰には、さらに困難にして重要な意義を有してをることが痛感せられる。加之、進んで南方廣域に對し米、英、蘭、濠の擲取勢力を驅逐一掃すると共に、そこに盟主日本の親心を以てする皇道經濟政策を推進し、民族のおのの生活を保持育生して行かねばならぬ。一面に於て複雑經濟に處し、他面に於てこれが單純平調を圖らねばならぬのである。

斯かる經濟建設の目標は通貨の堅固なる布陣と、その作用の状態に於て一目瞭然に察知し得らるゝやうに仕組まねばならぬ。經濟活動に關し通貨の負ふところの任務は、宛かも人體と血液との關係の如きものがある。優良なる血液の環流するところに必らず強力なる健康が保持せらるゝと同じく、貨幣が常に健全通貨の條件を具備してをれば、それが經濟建設の生命力となるのである。共榮圈内の諸民族は互に自らの生活面に對象的な相貌を呈してはゐるが、要するに本能生活の水準を保持し、これを充足することが大衆の念願である。これ等十億萬民の民衆を皇道經濟理念のもとに宣撫育生することに、吾々大和民族の誇りと天業の意義があるのである。

神武作戰と經濟聖戰の布陣

神祐天助を保有する無敵皇軍は雄渾極まりなき大東亞戰を展開し、しかも北の守りは嚴然として堅く、武力南進わずかに三ヶ月を出ずして南方の諸邦諸國を席捲し、太平洋から印度洋に跨る廣域を制壓するに至つた。その間、皇軍は度重ねて敵前上陸を敢行し、また嶮阻なる山岳地帯の突破、ジャングル地帯の強襲横斷、數知れぬ大小河川の克服、天海萬里に飛躍する戰艦、空軍の想像に絶する辛酸苦闘等々、ひたすら感謝感激の外はない。これが爲めに南方廣域は新嘉坡の陥落に亞いで爪哇、スマトラを攻略し遂に蘭領東印度を全面的に降服せしめ、またビルマの首都ラングーンも攻略し、早くも大東亞戰の大局は決定的な段階に入つた。今や濠洲、新西蘭および印度は、彼等が帝國の眞意を解して、進んで帝國に協力するや否やによつて明日の運命は、昨日の蘭印と同じ運命に置かれてゐる。

翻つて支那派遣軍は酷寒の征野に勇猛果敢なる作戰討伐を行ひ、戦果赫々たる南方戦線と相俟つて重慶政權および共産軍を撃破歴倒し、彼等の疲弊困憊をその極に達せしめ、今や米英に依存する他力本願の抗戰態勢は根本的に崩壊の一路を辿つてゐる。聽て支那全面に互り、敗殘の抗日陣營が潰滅するの日も近きにあるを思はせる。

聖戰五ヶ年に涉り神速果敢なる神武作戰は、戦つて勝たざるなく、討つて倒さざるはなく、皇帥を進むる新占領地域の到るところに、皇道政治を誘導し、皇道經濟を推進してゐる。殊に原住民族の生活に對する保持育生に就て見れば、世界戰史に發見し得ざる皇軍獨特の宣撫工作により、戰爭文化史上、永遠に範を垂れるものがある。諸邦の原住民族が嘻々として皇軍の雄々しき進駐を迎へ、進んで協力を惜しまざる態度が何よりも雄辯にこれを物語つてゐるのである。

斯くて濠洲を基準としたる米英の交通は遮斷せられ、大東亞に依存してゐた米英の軍需資材も生活資材も、交通路の不安に襲はれて彼等を賄ふ何物をも餘さない。もとより蔣介石に對する米英の援蔣物資の如きも、絶対に供給不可能に陥つたことは既定の事實である。すなはち敵性國家

群をして、對戰必敗の憂を深からしめるのみならず、世界に残存せる中立國をして、米英盲信の輕舉妄動を戒める警告ともなつてをるのである。

こゝに於て大東亞戰の戦果に伴ふ經濟建設の任務はいよゝゝ重大を極め、十億の大東亞諸民族の共存共榮を樹立すると共に、普ねく皇恩に浴せしむる神武作戰の理念に基き、政治經濟、社會宗教等各般に互つて博大なる抱負經綸を實施しなければならぬ。戰時または停戰直後にあつては、宣撫工作の實施と經濟施設を急務となし、第一次的には専ら戰爭目的完遂の重要物資獲得に重點をおき、兼ねて原住民族の生活水準を保護し、現實の産業を保育し、あるがまゝの生産物資數量の處理、效用に簡明適切なる監理、集散を徹底せしめねばならぬ。これによつて廣域圏内各地域の性格に適應せる物資の交流を行ひ、生産と消費貯藏とに於て迅速にして效果的なる對策を實施すべきである。

第二次的には各地域の地理的條件に基き、各民族の傳統的生活、産業、社會情勢を量り、民族個有の本能の發展性を賢察して生活の向上に適應せる物資補給の對策を講じ、生産物種類の増減

を調節して趣味的生活も指導し、本來の民族的生活に一段の光明を與へることが肝要である。さらに進んでは廣域圏の共存共榮を充足するのみならず、我が日本と善隣友好を約する世界の各地域に餘剰物資を供給する雄圖を抱き、各地域に最も適切なる農産、水産、林産、牧畜業などと工業との立地計畫ならびに交通運輸系路の改變を確立せねばならぬ。これによつて從來の自由主義經濟に名を藉る搾取に歪められたものを天惠の産業に復活し、且又、廣域圏内の共存共榮を目標とした立體的綜合經濟の建設に貢献せしむべく、また一方、敵性國家群ならびに敵性地域に對しては徹底的に物資抑壓の經濟戰略を以て追及壓迫し、經濟聖戰の目的完遂を期すべきである。

大東亞戰完遂と通貨統制

世界を擧げて一度は戰爭の坩堝に叩き込み、そこから發洩たる新秩序が世紀を劃す人類生活の新生面を描き出さんとしてゐる。この新秩序建設の聖業を世界に率先して謂はぶ先鞭をつけたの

は我が大日本帝國であり、滿洲事變、支那事變が意外な發展を見るに至つて獨逸は日本により起死恢興の機會を捕へ得たのである。一時は獨逸の西歐に於ける果敢な電撃作戰が世界を驚倒するかの感があつたが、客臘十二月八日、わが大東亞戰の御詔勅を仰いで獨逸に優る雄渾極りなき大作戰が南方に展開せられ、今や東亞十億萬民をして皇恩に浴かしむる戰果が赫々として目醒まし進展ぶりを繰り擴げてゐることは洵に同慶に堪へない。

斯くて日本の勢力が及ぶ地域の擴大するに従ひ、その跡に經濟聖戰を裏付ける通貨の基本的調整と比率規正が必然、要求せられてくるのである。凡そ經濟的建設の全貌は通貨の布陣と、その效用ならびに信用の程度に於て最も明白に察知することが出来る。それだけに通貨の調整は最も至難の業であり、政治權力の徹底してゐない國家もしくは地域に於ては、通貨調整の最も困難なることは史實の立證するところである。特に支那の通貨史を繕くものは、その顯著なる轉變懊惱の沿革をも知るであらう。民國二十四年に於ける蔣政權の幣制改革以前にあつては、地方政權の發行したる封建的存在の各種の通貨を統制するが爲めに、財政通貨を併用して海關收入、對外支

拂の基本通貨となした。その一方、經濟通貨はその價值と共に金融市場に抛置されてゐたものである。斯くの如くにして通貨面より見たる支那の經濟情勢は、常に安定性を缺き不安なる状態に在つた。そこで蔣政權は廢兩改元の通貨統制を行つたが、これは全く英國に依存し、幣制の奴隸的存在を甘んずるに至つて、安きを求めて却つて支那の國家國民を今日の苦境に陥れる動機を孕んだものである。

斯くて支那に於ては從來、英米謀略のもとに彼等の權益と相俟つて通貨が介在し、我が日本の通貨政策に尠からざる妨害を演じてゐた。英米は單り我國に止まらず、東亞廣域圏内を全面的に同功異曲の牽制を試みてゐたのである。

然るに大東亞戰の緒戦以來の赫々たる大戰果により、支那に於て米英が謀略の要塞とした租界は迅速に接收せられ、その勢力は擊攘されてしまつた。加之、東亞廣域圏より彼等の權勢を驅逐一掃し、所謂、A B C Dの對日包圍陣は皇軍の一撃のもとに、彼等の死命を制す物資補給の逆封鎖を以て報ひられるに至つた。最早や米英とは、物資交易の上からも完全に絶縁してしまつたの

である。

事態こゝに至つて通貨の面に於て、日本は日本の自主的方針により、雄大なる通貨政策を推進する責任を加重した。然して神速果敢なる戦果は、恰かも此の通貨政策を實行するに絶好の機会を齎したのである。今や米英の退敗により金本位制の離脱に拍車をかけ、管理通貨制度の運用が豊富なる資源を享有する大東亞の共榮圏内に於て、最も有效にして模範的なる通貨の運用を約束せられるやうになつたのである。原住諸民族に對する心理作用からも、現に之を推進高調する機會が到來してゐる。こゝに於て新日本銀行法の劃期的改正を機とし、一貫不動の方針を以て命令系統を明確にすると共に、通貨と物資の交流が大東亞の全面を通じて廣域圏内を横斷し、將又、縱斷し、迅速かつ圓滑なる物動計畫の徹底を期し、帝國の新通貨政策が諸民族の生活の向上と安居樂土の實現を目的とする所以を理解せしむることが肝要である。斯くして作戰軍並に従屬部隊の現地調査に資しつゝ、敵性地域を封鎖壓迫して、大東亞の皇道經濟は建設されるべく、諸民族を以て我が國策の推進に協力するやう馴致することを得るに至るのである。

圓を中心に共榮通貨の使命

一四

曩に第七十九議會を通過した新日本銀行法の要點は日本銀行券を以て、大東亞に於ける廣域圏内の金融通貨に關し、その中核的使命を持たしむることに在る。従つて日本銀行の性格を國家的性格にまで強化し、その資本金も一億圓に増額し、業務の内容に於ても日本銀行が爲替の作業を行ひ、政府の命令により民間に對する貸付業務も行ひ得ることになつた。その中でも、顯著なるものは日本銀行券たる「圓」は最早や金本位を離脱し、これが發行に就ては政府の意思により、無制限發行の不換紙幣となしたことにある。すなはち日本銀行は政府と表裏一體をなし、日本銀行の運営は専ら政府の責任に歸することとなつたのである。

原來、日本銀行條例の規定に「コレスボンデンス」といつたやうな英字を用ひたぐらひであるから、その條例たるや如何に時代遅れの甚しいものであるかは、以て知るべきである。これは倫

敦銀行の性格、組織を全くそのまゝ踏襲し、自由主義經濟の因習を做つてきたに過ぎない古い型の存在であつた。數十年もの間、何等の改正を加へることもなく、時勢の進展に置去りにされてゐたものである。こゝに於て劃期的改正を斷行することは當然であり、當局の苦心も諒とするものである。

我國は滿洲事變より支那事變に轉回し、日滿支の共榮廣域經濟を對象とする金融通貨の整備に迫られ、これが機宜即應に善處して來たのである。時なるかな、客臘十二月八日、雄々しく大東亞戰に發展し、今や大東亞の十億萬民衆と尨大なる地域内に於ける物動資源とを對象とする豪壯雄大なる金融通貨の自主的計畫を樹立する必要が緊喫の急務となつてゐる。

由來、金融通貨面より見た廣域圏内の貨幣は、滿洲に中央銀行券あり、北支に聯合準備銀行券あり、蒙疆特別地域に蒙疆券がある。また中支には汪政權の儲備銀行券あり、主として爲替決済の目的に用ひられた日系の華興銀行發行の華興券あり、さらに重要な使命を有する我が軍票券あり、敗殘の蔣政權下に屬する四行（中央、中國、交通、農業）銀行の發券たる法幣が全面的に

流通してゐる。南支に於ても法幣および蒙券あり、四川省および雲南、貴州その他の敗殘蔣領地域に於ては専ら法幣を通用してゐる。奥地の不統制なる地域にあつては各種の雜券も使用されてをり、香港に於ては香港ドルを用ひてをつた。さらに南方に於ては佛印にピアストル、泰にパイッ、比島にペソ、蘭印にギルダ、馬來に海峽ドル、ビルマにルビー、濠洲にポンド等が使はれてゐる。その價值などに關しては後に比率の項で述べる。

法幣は元來、英國依存であつて日支事變以來、米國も政策的に支持するやうになり、全く英米の隸屬的存在であつた。佛印と比律賓の通貨は從來、米ドルに依存し、またタイのパーツ、馬來の海峽ドル、ビルマのルビーは英のポンドに從屬してゐた。さらに蘭印、ボルネオ、マラツカ諸島その他の南方一帯も投下資本や貿易關係に於て英米の經濟力に支配せられてをつた。

然るに大東亞の赫々たる戰果により、米英の勢力はこれ等の東亞廣域圈より全面的に驅逐せられ、今や我が日本の自主的勢力圈に抱擁せられるに至つたのである。この劃世紀的なる大變革を眼前に展開し、新情勢に對處する爲めには、帝國の施設は凡て雄大なる抱負經綸が要請せられに

至つた。換言すれば神速果敢なる神武作戰の進展に伴ひ、東亞共榮の計畫經濟を對象とする金融通貨面に於て「圓」の使命は頗る重大となつたのである。

本來、通貨はその國、その地域の經濟的の指標であり、通貨價值はその國または地域の實力の象徴である。しかしこれまで支那および南方廣域圈内の物的資源乃至人的資源は自由主義經濟、謂ゆるユデア經濟資本勢力のもとに壓倒せられ、原住民族の要求には反しても彼等の功利的な生産物資のみを強制し、又支配し、全く奴隸的搾取下に壓縮せられてゐた。爾く半身不隨とさせられた爲めに適地適作の産業に自由選擇の機會を奪はれ、不自然なる産業機構のもとに抑壓せられてをつた。従つて通貨價值も各々その享有する實力を最高度に向上せしむることが出来なかつた憾みがある。だが今や、米英勢力を驅逐した結果、生産物資の消費面に異常を呈すものがあつても、兎も角、十億萬民を對象とする消費面に轉回して生産物資交流の圓滑を圖るに於ては適地適作の有利なる生産方向に共榮通貨の價值を自然に向上し得ると共に、從來ユデア經濟の魔の手により闇相場や物價の政策的激變などに禍せられたことが無くなる。平明にして自然なる金融軌道

の上に物資が圓滑なる交流を高調し、明朗なる「圓」系通貨の廣域經濟運営が期待せらるゝ光明を認むるに至つた。

そこで日本銀行券の雄大なる使命を果す爲めには、此際、これに相應する資本金額の増強が要望せられるのである。支那事變以來、既に四百億餘の戦費が計上せられ、進んで戦時資材の擴充と産業設備再編成の爲めに要する金融資金が必要とせられる。この巨大なる財政通貨ならびに計畫經濟通貨の準備を要するのみならず、所謂、生活通貨および産業通貨等、一般經濟通貨の増強を必須とする國民經濟の發展に伴ひ、通貨の發券増強は已むを得ざるものである。これを國內的に見るも、日本銀行の資本金額を増強する必要のあることは當然と云はねばならぬ。斯かる重大任務を有する日本銀行は此際、爲替銀行たる正金銀行や臺灣銀行、朝鮮銀行をも併合し、命令系統の直載簡明にして、強大なる機構を整備する必要がある。さらに銀行局および爲替局をも併合し、一の外局を設けて大藏當局は勿論、陸、海軍經理當局および日銀、正金その他民間の練達堪能なる經驗者を包含し、専門學者も登傭して、一貫したる通貨國策が賢明にして力強き政府の意

圖により共榮圈の全面に浸透し、縦横無盡に通貨と物とが裏となり表となり、表となり裏となつて作用せねばならぬ。これによつて、圓系通貨の價值力が物資の交流を支配し、大東亞の天地に立體的なる新經濟組織を建設する。その原動力として、我が帝國の全智全能を結集したる金融工作の一大進捗を圖らねばならぬ。

米英の崩壊撃滅は必至であるが、世界平和の曉に於ても日本は世界經濟金融の決定權を把握し、優越權を實施し得る機會が到來することゝ信ずる。その時に際つては敵國たると樞軸國たるを問はず、列國を相手として申分のない手が打てるやうに周到なる準備をさ／＼怠つてはならぬ。斯かる萬全の用意こそ、銃後國民に必須の重大責務である。

我が日本銀行は大東亞共榮圈に於て、金融機關の中核體として強靱なる統制を布き、通貨面の指導者たる權威に鑑み、自主的立場を保持せねばならぬ。米英ユダヤ金融の魔の手を脱し、我國に依存する以外に方途なき状態にある共榮圈内の諸邦および諸地域の民族に對して、眞實の皇道金融政策を遂行し、今次聖戰の指標とする民族おの／＼そのところを得しむる確乎不動の信念を

以て金融國策の遂行を期せねばならぬ。

支那の通貨と管理統制

大東亞の共榮圈内に於て、支那の通貨對策は戰時、平時を通じて最も重要な課題であることが痛感せられる。何しろ四億五千萬人を一團とする大衆の生産、消費を對象とする通貨の融通額がその廣域面に於いて如何に甚大なものであるかは言ふまでもない。餘剩物資の國外輸出と國內の消費需要に對する輸入の數量も大きく、更に國內移出入の物資交流が大きな數量を示して居る經濟活動の事實に鑑み、支那は共榮圈内に於いて經濟的に最大の據點となつて居るのである。その地域的關係に於て、將又、民族が特殊な經濟性を有する點より觀るも、支那の經濟建設は大東亞經濟建設の中心動體であると視られ、これが利用價值には大きな將來性を有してをる。特に通貨の觀點に於ては洵に重要な存在である。従つて支那の通貨整理統制は廣域經濟建設推進の上

に、最も賢明なる建設的指導を必要とするものである。而して支那民族と通貨に對する特徴を究明するには、大體左の如き状態を豫め知つて置くことが必要である。

一、人口の巨大なることと、其の實需通貨の數量も亦大きく、廢兩改元後に於て「西北開發」、「農村復興」を指標として、産業開發や社會政策を實行し、法幣を全國的に散布浸透せしめたること

一、民衆生活は總て黒字の生活であつて、通貨の動搖に對する弾力性を有すること

一、一般民衆が平時に在つて爲替變動に對する機智に富み、敏活なる積極的處置を心得、また通貨に對して頗る執着力の強いこと

一、戰爭、天災、惡政、擄取商業に通貨の動搖や激變があつても、直ちにこれを防衛し、善處することの特徴を有すること

一、經濟恐慌に直面して如何なる激動を受けても、資本家は直ちに清算勘定の便法を活用し、民衆は逃避保身の術を巧みに講ずること

(北支には天津を中心に滙甲(撥馬)を用ひ、中支では上海を中心に滙劃(發換單)を用ひて大口清算勘定に利用し、地方的には雜券を發行して正貨と換貨するまでの或る期間に利用してゐる。また重慶軍は退却に際して、法幣に重慶と捺印した紙幣を預金に對する身代りとして置き去りにしてゐる。)

一、農業本位の支那に於ける生産數量は、平年には二十億元の餘剰を生じ、豐年には四、五十億元の餘剰生産を有すると稱せられる。此の巨大な生産力が長期に涉つて通貨に對する裏付となる強味を有すること

一、清算勘定の德義的觀念は、支那古來の慣習として社會の各組織形態に存在して居ること

以上の状態に在りて、支那の通貨面の動向が考へられねばならぬのであるが、この場合、支那通貨の史實、沿革を論究することを避け、現實の問題として、支那に於ける通貨統制の重要性を説きたいと思ふ。

支那の通貨が封建的分割状態に置かれてゐたことは久しかつた。その長期間に國として又地方

的に共に通貨については深刻なる悩みを持つた、といふことは支那の通貨史を読むもの、齊しく熟知する所である。而して遂に財政通貨(テール)と經濟通貨(元)とを二本建にして調節を計つて來たが、蔣介石は國內統一に緒光を認めて、一九三五年十一月、英米の支援の下に幣制改革を行ひ、法幣を國貨とする一貫策を斷行したのである。是れが所謂リスロスの改革である、即ち在來の現銀通貨を回收して、法幣を散布したのである。斯くて蔣政權の國內統一工作の進捗に伴ひ法幣通貨は各地域に浸透し、通貨統一は全支に互つて遂行せられたが、一面には通貨統制の前進成功が蔣政權に對して如何に國家の統制上から鞏固な建設に力強い支援となつたかは、蓋し思ひ半ばに過ぐるものがある。

銀を國內から回収して紙幣に替へたことが、今日の戰爭の遠因を爲して居ると觀るものがあるが、實際蔣政權が敢て反日抗日に盲進して來た大きな原動力となつた事實は争はれない。法幣は重慶政府系(中央、中國、交通、農民)の四銀行が發行した蔣政權の管理通貨である。事變勃發以來は急激に増發して、銀行側は之に對し一割乃至三割の手數料を收めて居つたのである。然し

準備制度で現金六割以上を保有するといふ建前であるが、決して健全通貨ではない。その發券及び準備は總て英米との制約に束縛せられたのである。即ち英米の奴隸的存在に過ぎないで、全く自主性を失つてをつた。英米の狙ひ所は支那の貿易であり、海關收入であり、日本に對する策略的抑制と經濟的壓迫であつた。それ故に、通貨管理は國際管理の美名の下に、實は全く英米の掌中に握られて居つたのである。

更に通貨の客觀對象たる支那の生産面を見れば、前言の如く、國民經濟は農業を以て九割を占め、工業部面は極めて一局一小部分に過ぎず、精製品、半製品工場は洵に寥々たるもので、技術も亦拙劣であつて到底、言ふに足りない。要するに、全支那は平面的組織體である。この支那民間に散布せられてある通貨即ち法幣は百數十億元と推量せられ、その内三十億元は雜券と見られて居る。而して此等法幣の二十億元乃至三十億元は一部少數の資本家の手中に收められて居つたのである。是れが即ち遊休資本であつた。此の遊休資本なるものが闇相場の正體であり、抗日通貨謀略の原動力であつた。

此處で注意すべき點は、過去に於て法幣のインフレーション即ち通貨の増發が民衆經濟に如何に響ひてをつたかを觀るに、文明諸國に於けるが如く深刻に反動を起さない特質を持つて居ることである。これは何故かと言へば前述の如く、増發せられた通貨が便法清算勘定に抱かれ、専ら上海、天津、香港等の國際都市の外國爲替銀行と接觸する安全地帯に集結して、爲替は勿論、換物投資に利便な自由經濟主義の温床に保育生存の餘地を有して居つたからである。

しかるに今や、我が赫々たる戰果は支那より殆ど全面的に英米の勢力を驅逐した。租界は天津も、上海も、香港も悉く接收されたのである。支那に君臨した英米銀行は勿論のこと、蔣系銀行も、殘餘の銀行も、夥しき錢莊も、迅速果敢なる皇軍の手に依つて其の内容は明々白々となり、我が勢力の下に管理せらるゝに至つた。従つて法幣の效用が激減し、法幣インフレーションの反動の爲め法幣價值の慘落となつたのである。加之、香港や蘭貢の陥落遮閉により通貨として無限の需要に應ずる印刷輪轉機は失つたと見られ、同時に海外から輸入することも至難となつた。従つて技術的に一般人が信用するにたる紙幣の大量發行は不可能となつた。斯くて蔣政權は公債の

消却もできず、法幣を支持する實力を失ひ、己が發行した法幣にさへ見放され、幻滅の悲哀を満喫してをる。この時この際こそ、皇軍の威風に靡く支那資本家並に民衆の心理状態を利用して、現實の經濟情勢に適應せる對策を確立し、一貫不動の金融國策線に乗せて行くべきである。

最近、中支の新通貨對策として當局談が上海電報に依り報ぜられて居るが、從來正金銀行の建てた軍票相場は新舊法幣に共通のものであつた。今後は汪政權の法幣即ち儲備銀行券に對してのみ爲替相場を建てることにして、舊法幣に對しては市中の相場を基準とし、軍票との交換は之を認むる方針であると傳へられて居る。三月九日の正金建値は儲備券百圓に對して軍票の賣を廿圓、買を廿圓八分の一と決することになつた。とあるが、舊法幣と切離して、専ら儲備券を支援する方針は極めて機宜を得たるものと云ふべく、儲備券を以て舊法幣を眞の姿に追及し、又回收し、或は吸収し、儲備銀行券による通貨面の絶體的擴大強化を徹底せしむべきである。また他面に圓系の通貨に對して地域通貨はブロックの經濟的勢力その他の條件を綜合究明したる上に、通貨價值の比率を規正し、此の機會に一入と汪政權の奮闘努力が肝要である。

通貨價值が貿易と密接不可分の關係を有することは喋々を要しない。従つて之を日支間の貿易に觀るも、法幣價值の激變が甚しかつた過去一兩年の間はプール制度を設けて、日本と中支との貿易調制を圖つて來た。また北支と中支との間に於ても管理を實施して來たのであるが、元來プール制は通貨と物資とが自然の姿に於て交流する限り、その介在を要しないものである。相互の通貨價值は等價または近等價であるか或は物價指數が甚しく異狀を呈して居る場合に限り、之が調節機關として利用せらるゝもので、恒久性のもではない。謂はゞ單なる一つの便法であり、暫定的性質のものでしかないことを知つてをくべきである。共榮通貨が共榮貿易促進の主役を擔ふとき、日滿支の交易經濟調節の上に支那通貨の整理統制は重大なる課題である。況や大東亞區域圏の大動脈たる地域勢力を有するに於てをや、と云はざるを得ない。

現下、圓系通貨の指標として滿洲國に中央銀行券あり、中支、南支に軍票があり、北支に聯銀券があり、蒙疆に蒙疆券であつて第一線に立ち、日滿支の基本的經濟調整の使命を擔ひ、さらに通貨統制の機能を發揮してゐる。我國が蔣領及び共產地區に對して強力なる經濟壓縮の經濟聖戰

に不退轉の進撃を進めつゝある所以のものは、一貫せる皇道經濟の理念に立脚するからである。

共榮通貨の比率と物資交流

通貨の價值效用は物資の交流を最高度に旺盛となすことによつて、その活動ぶりが反影せられる。凡そ各國もしくは各地域の生産物資が、通貨の媒介によつて活潑かつ圓滑に流動しなければ、その通貨は有意義に活用せられず、まして共榮通貨の意味をなさないことになる。

南方の諸地域を指せば、誰しも直ちに豊富な物資の實在を聯想する。だが併し、その豊饒な物資も、これを媒酌する通貨に魅力がなければ物資は艶かな姿を隠して世に流動しない。通貨に信頼を有ち信用を呼び、現在および將來の物資に向つて通貨の效用を期待し、信憑せしむる力を有する場合に於て、始めて通貨の價值が保證せられるものである。

こゝに於て帝國の權威と實力を以て、帝國政府が全責任を負ふところの「圓」貨を主動的立場

におき、共榮圈内經濟生層の全面に涉り物資交流の媒介を果させなければならぬ。この見地より圈内諸邦または諸地域の各通貨に對し、それ／＼適正なる比率を規正することが共榮經濟の調節に最も重大なる前提條件である。

今や帝國は武威堂々、大東亞共榮圈から米英蘭の勢力を驅逐し、彼等の搾取を本位としたる資本經濟網を破摧した。なほ多少の敵性地域は殘存してゐるが、圈内經濟活動の地理的要衝は悉く皇軍の掌中であり、既に大局を制壓して物資の敵性活動には終止符を打つたものと見るべきであらう。しかも廣域圈内の戦績は、今や全く整理調節の緒につき、共榮經濟の建設は先づ第一次に戰爭目的完遂の重要なる任務を負擔してゐる。すなはち帝國は國策遂行の根幹を基調として、重要戰時資材の獲得と、民生保育の經濟指標を睨み合せ、通貨交易の敏活にして有效なる活躍が緊急緊要なる課題となるに至つた。

大東亞共榮圈内に於て、相互に交流すべき物資は枚擧に暇もない。主なる例を掲げれば、必需食糧たる米は佛印、タイ、ビルマに産し、輸出餘力のあるものは日本と支那占領地域へ優先的に

輸出し、馬來、東印度、比律賓へも配分しなければならぬ。東印度や比島で多量に産出する砂糖は滿洲、支那、馬來、タイ、ビルマ等へ供給せねばならぬ。佛印や東印度産の石炭は國內各地、特に比島の工業に大量を振向けねばなるまい。東印度およびビルマから産出する石油は、先づ第一に日本および滿洲の工業へ大量輸出し、さらに支那、比島、馬來、佛印、タイ等にも配分しなければならぬ。

さらにこれを地域的に概観すれば、滿洲は大豆、高粱、粟等の農産品や木材、羊毛等の工業資材を日本に齎らして化學製品を日本から輸入し、また勞働力を支那から仰いで特殊農産品を支那へ配給し、南洋からは輕工業原料を輸入せねばなるまい。

支那は棉花、麥、茶などの農産や木材、桐油、皮革、岩鹽、錫、鐵などの工業資材を日本に輸出して、日本から重化學工業品を輸入し、また輕工業原料や農産食糧を南洋に仰いで輕工業品を南洋へ輸出する。

日本は南洋からも重輕工業原料を輸入して重工業品を輸出することになる。殊に南方人の必需

品とする綿布、人絹を供給せねばならぬ。南洋特産の護謨、錫、ボーキサイド、果物、コブラ、香料、纖維、魚貝等々何れも共榮圈内に偏在する物資交流の渦捲きを描かねばならぬ。かてゝ加へて南方の廣濶なる海域は漁場として未だ處女水域とも云ひ得べく、技術優秀なる水産日本の榮譽にかけて、これを開發すれば東亞共榮圏の糧食補給に甚大なる効果を齎らすものである。

これに處して帝國は、帝國の權威を以て對象的地域の經濟情勢を見究め、そこに蕩々たる皇道金融が確立せられなければならぬ。彼我の相互間に比率を設けることは當然のことであるが、その比率は經濟情勢の變化に隨つて變り、變ることが寧ろ通貨の本質である。こゝに從來の共榮圈内にあつた通貨の比率を検すれば、滿洲國中央銀行券は現在、依然として圓と等價である。北支の聯銀券も又蒙疆券も圓と等價であり、聯銀券と法幣とは大東亞戰の直前に於て法幣一〇〇〇元に付き聯銀四六〇、現在は上海法幣一〇〇〇元に付き聯銀三〇（但し戦前は三五）である。中支に於ける軍票と儲備券は大東亞戰前無開であつたが、現在は儲備券一〇〇〇元に付き軍票二〇圓である。また儲備券と法幣は戦前無開であつたが、現在は法幣が一分五厘歩してゐる。さらに軍票

と法幣は戦前法幣一〇〇元に付き軍票三一・八分ノ三であり、現在上海の市内相場ではこれが十五圓見當である。

南方諸地域に於ける通貨は、大東亞戦直前の昭和十六年十二月六日に於て、次に表示するやうな對圓爲替相場であつた。

佛	印……一〇〇ピアストル	九八圓八分ノ一
タイ	國……一〇〇バーツ	一五九圓四分ノ一
比	島……一〇〇ベソ	二一二圓四分ノ三
マレ	ー……一〇〇海峽弗	二〇一圓二分ノ一
香	港……一〇〇香港弗	一〇七圓四分ノ三
蘭	印……一〇〇圓ニツキ	四三ギルダー四分ノ三
ビ	ル……一〇〇圓ニツキ	七七ルビー四分ノ三
濠	洲……一圓ニツキ	一シル五ベンス二分ノ一

然して今日の佛印の通貨は圓よりも少し安い。大東亞戦勃發直後、逸早く大藏省は外國爲替相場を圓建として新相場を發表し、圓貨の對ピアストル電信相場は従前の經濟協定による前記九十

八圓八分の一から九十七圓六十錢に引上げられた。

タイ國政府も従來、英貨ポンドにリンクしてゐたバーツを圓に切換へ、この程〇・三二六九グラムを一バーツとする法制を布いた。タイの大藏省では一バーツが幾グラムであるかを定めたゞけで、日泰間の爲替相場を定めたものではないと聲明してゐるが、日本政府の金の買上げは一グラム三圓八十五錢であり、これから今回の一バーツを計算すると一圓二十五錢見當となる。現在に於て貿易その他の決済には依然、一バーツ一圓五十錢位の相場であるから、タイの通貨は金の買上値から推して少し高いものになつてゐる。

フィリッピンに於ては比島派遣軍が比島に流通せしむべき通貨を布告して、日本政府發行の軍用手票およびフィリッピンのベソのみに限定し、他の外國貨幣は一切これが流通を禁止した。なほ米ドルには従來通り二ベソ一ドルの割合で當分の間流通を認めるが、凡ゆる支拂手段としては、右の流通貨幣を以てすることになり、戦前に於ては圓よりも高かつたベソが等價とした爲めに下つて來てをる。馬來の海峽ドルも下つてきてをる。

馬來を始め爪哇、ビルマ等の新占領地に於ては、孰れも既に嚴然たる我が軍政下に流通通貨がそれ／＼指定せられ、我が軍票と共に適正な新生譜を奏でつゝある。これ等の地域に於て軍票が歓迎せられつゝある事實に徴するも、通貨に對する諸民族の心理作用が重要な要素となつてゐることを知ることが出来る。軍票の信用は皇軍の威望に對する信頼である。帝國の實力發展、國策の推進は軍票に等價の圓をして經濟的進出に至大の便宜を與へ、その妙用をも携行するものである。従つて軍票の信用を裏付ける經濟的、文化的後續陣營の敏活にして有效なる計畫推進が肝要である。

要するに通貨の比率は其國または特定地域の經濟狀況、その他各般の條件を綜合して適當な規正を設定する外ない。比率を設けることによつて、時に相手方の通貨價值が下つたといふことがあつても、下つたことが決して無慈悲な仕打ちではない。寧ろ、それが共榮推進の行爲ともなり、積極的に八紘一宇の大精神を顯現することにもなる。相手方の通貨を下げるからと謂つて、日本は斷じて覇道を強いるものではない。皇道精神によつて善隣共榮の實を擧げんとするのであ

る。すなはち物資が、その地域の通貨の魅力によつて滑らかに動くやうにする爲めである。これに依つて、その土地の經濟を常態に復活せしめ、その國もしくは地域の財政經濟をして、現實に發展する基礎を築いてゆくのに外ならないのである。

南方に對する我國の貿易は當分、片貿易となるであらう。しかし片貿易であつても、一面多數の住民が衣食足りて日本の皇道政治を謳歌し、満足して共榮經濟の建設に協力する氣持ちを持たせる爲めには、先づ通貨に適正なる比率を設け、賣惜しみや買溜めなどの不圓滑を招來する思惑または不安などの間隙を與へぬやうに防遏せねばならぬ。同時に住民の生産物は遲滯なく有無相ひ通ずる消化の途に導くと共に住民の欲するところの物を與へる方策をとるべきである。南方の諸民族は極めて慾望が單純であり、經濟觀念も低いのであるから、先づ衣食を満足させることが最も肝要である。現在諸民族の必需品に就ては、日本から出来るだけ彼等に供給する必要がある。殊に南方に於ては寒帯や亞寒帯の住民と異り、衣服に於て複雑な種類を要する生活様式ではなく、それだけにこれが行詰つた時には、文字通りかけがひのない悲惨な生活に陥るのである。

此點は爲政家の深く意を用ゆべき處である。

結 語

御陵威の下、戰勝國家國民の最大任務は、占領地域の諸民族をして各々その處を得しむる御聖旨を奉じて戰果を收拾し、建設工作を進め、各民族の安住、向上を計り、冷く廣大無邊の皇恩に浴せしむるに在る。

凡そ政治、經濟、社會、文化、宗教等各種の民族生活を保持育成する組織的な指導建設行爲は、戰跡を追うて直ちに推進すべきことが常識である。最も緊要なる任務は、戰鬪進軍後に於て何者にも反撃の餘地を與へない不敗鐵壁の防衛陳を築き、以て大東亞共榮圈の國土防衛を完備することである。武力戰は、陣中は勿論、銃後に從軍する政治經濟戰士の決死的活躍動員に待つものである。その次に從軍するものは社會動員戰士であり、文化、宗教普及の戰士でなければなら

ぬ。而して斯等の政治、經濟、文化、宗教の各動員を統括するものは一に軍政であり、二に文政である。戰時中に在つては、地域的に軍司令官の下に軍政府を設け、或はまた總督政治を設けて統治の重責に膺ることが常石となつて居る。軍政府、總督政治の任務は戰爭目的完遂の人的物的資源の國防體制を強化し、帝國を中心とした雄大なる國防陣營を構成することに在る。されば帝國の責任は極めて重大であつて、國民も亦各自の全智全能力を傾け、廣域圈内の各地域の自然條件に伴ふ生産資源を高度に活用し、民生保育の成果を全うして現段階の戰爭目的を貫徹せねばならぬ。生産資源の活用は複雑なる通貨を平明簡易に物資交流の媒介に役立たしむるに在りて、此處に指導者の賢明なる活躍が要望せられるのである。

通貨より觀たる共榮圈の劃域交流は日本を中心として、「滿洲國と北支」、「滿洲國と蒙疆」、「北支と蒙疆」、「北支と中支」、「北支と南支」、「中支と南支」、「中支と滿洲國」、「滿洲國と南方諸地域」、「支那と南方諸地域」といふやうに各々物資交流に異なる通貨の爲替勘定を織込んで決済されねばならぬ實狀に在る。而して戰果の擴大により豊富なる物資は活潑なる動員を求めて居る。

この希望に満てる共榮圈内の物資は積極的建設資源たると共に、敗殘蔣領を壓迫し、擊滅し、米英をして城下の誓を爲さしむる大自然の力を抱藏して居るのである。この物的人的經濟作戰計畫に對し、通貨工作の負ふ役割が如何に重大なるかを知らねばならぬ。

通貨の健全性と、その高度效用を期する爲には、適正物價の安定を圖り、換物思想の思惑行爲を抑制し、通貨に對する信頼を誘導し進んで生産活動に意慾を生ぜしむることが肝要である。従つて勞働賃銀の適正を期し、徒らなる部分的高騰を警め、自然的なる強力統制を考へねばならぬ。物價は多くの場合に勞賃を支配する傾向があるが、政治の力が賢明に勞働賃銀を規正するに於ては、必ず勞銀に伴うて適正物價を安定に導くものである。

盟主日本は今や國內に於て思切つた衣料品の消費規正を斷行し、國民は進んで國策に協力して居るが、決して單なる消極的觀念に基くものではない。こうして得た剩餘品をば廣域不足地帯に動員して、原住民族の生活に補給せんとするに在る。此等の物資供給が換つて米となり、ゴムとなり錫となり、其の他の生産品とも交換せられ、有無相通じて共存共榮を實現することが即ち皇

道經濟理念に發足するものである。既に泰國方面に對しては、政府は日本品の輸出を獎勵し、織物、雜貨類等には殆ど制限を加へず、南方諸域殊に占領地帯に對しては、昨年七月英米の資金凍結以來ストップされたる輸出品を振向けて居り、物資の交流により通貨に對する裏付に努めて居るが、原住民族の必需品に對する物資供給に就いては、一入と徹底した對策が期待される。

勞働賃銀に就いても、戰時又は戰爭直後に於て、物價指數の高騰と共に著しき上騰を一般に示して居るが、特に泰及び佛印に於ては物價指數も勞働賃銀も著しく上騰して居る。是れ即ち一兩年來タイ、佛印の國境戰の爲に消費した軍事費の増加に因るものであつて、之が爲に我國に輸入する外米の價格は勿論、その他の物資にも影響を來たして居る。支那に於ける物價騰貴、就中棉花の價額騰貴も亦よき参考となすべきである。

由來、戰時に於ける物價指數の高騰は歴史の示す所であるが、物價や勞銀の異常なる高騰は、之を放置するに於ては民族統治上又は宣撫工作上の支障となることなきを得ない。故に常住不斷に物價と通貨に對する因果關係を究明し、適切なる對策が迅速果敢に實施されねばならぬ。

現地に於ける圓系通貨の中で儲備銀行券と南方開發金庫とが、現在最も重大な使命を擔うてをる。南方開發金庫は南方地域に於ける資源の開發及び利用に必要な資金を供給し、併せて通貨及び企業金融の調節を圖ることを目的とし、南方に關する經濟國策は先づ此の金庫を通じて統轄遵行さるゝことになつてをる。その業務上に於ては資源の開發及び利用のため必要な融資又は投資を爲す以外に預金、地金等の賣買、通貨の交換、爲替の賣買等を行ふものである。開發金庫の資本金は一億圓であるが、現地に於ける投資、融資の工作には政府の臨時軍事費特別會計から借入の途が開かれ、軍票を中心に金融の運営活動の調節が行はれることになつて居る。

この金庫は現地の中央都市に支金庫を設け、現地の金融機關に對して資金の貸付をなすと共に、金庫自身も直接貸付業を營み、貿易とも一貫して取扱ふことになつて居る。現地金融並に企業の監督は、軍政下に於ては勿論、軍司令官又は總督の支配する所であつて、重要な金融指令は中央と緊密なる連絡が行はるゝことになつて居る。また地域的には、南支と香港とは開發金庫の營業區域範圍外に置かれてゐる。

戰時經濟の要諦は重點主義の資源獲得を眼目とする開拓指導と共に、確保せる地域の民族生活の必需品を充足することにある。更に物資を取得する場合の影響を付度して裏付物資の供給と通貨工作とを脱み合せて對策を施すことが肝要である。大東亞の高度經濟建設の實現については、進んで自然科学、無機應用化學等の一大科學研究所を設立動員し、高度建設機構を整備擴充して廣域圏内の遠大なる立地計畫を確立し、交通運輸の系路改變を行ひ、以て商工業の適地生産主義の下に、産業再編成を検討し之が急促なる實現を期すべきである。

凡そ金融通貨工作は政治經濟部門に於て最も重要且つ難事とする課題である。さればこそ工作運営に完璧を期し、皇道經濟の智的權威を示現し新占領地開拓統治の模範を世界に垂示すべきである。

皇威顯彰忽ち皇恩に浴する光榮を頌つに至つた東亞の民族は、今や全く英米蘭の搾取壓迫より開放された。各地域の原住民族に對しては、民族古來の慣習的生活に満足を與へ、民族個々の生存慾望の眞意を把握し、以て彼等の前途に光明を與へ保持育成することが即ち盟主日本の道義的

責務である。是處に於てか我が軍官民は指導の重責を自覺し渾然一體、先憂後樂の範を示し、億兆一心以て十億萬民族の中核體となり、大死一番、身を以て難局突破の關頭に立ち、雄大なる戰爭目的を完遂し、更に過去に於ける黃禍論者を戒め白色人種か有色人種に對する僻見、蔑視を一掃せしめ、品格と實力素質に於て優秀豪強なる大和民族の精髓を世界に徹底認識せしめ、世界人類史上に一新紀元を劃して、帝國の世界的大使命を中外に顯彰する大國民の態度を發揚せねばならぬ。

(昭和十七年三月二十六日第七十九議會閉院式を終へて稿)

昭和十七年四月十五日初版印刷
昭和十七年四月十八日初版發行

【製複許不】

共榮通貨と物資交流

定價金拾五錢下四錢

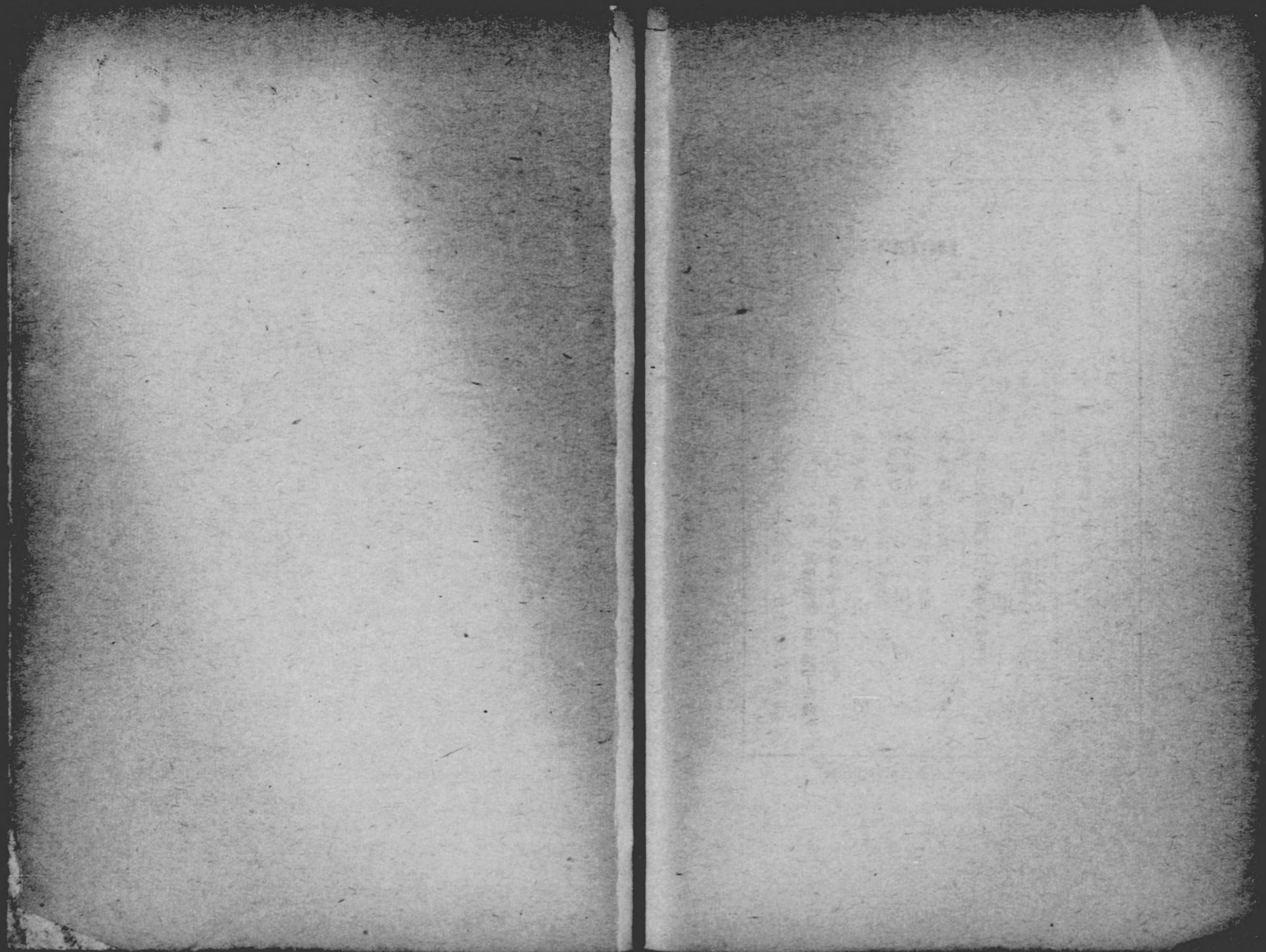
著者 栗山 博
東京市澁谷區代々木初臺 五四六

編輯發行 中 原 利 一
東京市神田區旭町二大回ビル

印刷所 文 光 堂
東京市神田區司町一ノ二十一

發行所 南 進 社
東京市神田區旭町二番地大同ビル
振替東京一六八五三四番
電話神田一一八五―八番

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地



424
101

